

アジア地域GCフォーラム
“Changing Landscapes: Towards a sustainable economy in Asia”
参加報告会

GCにおける日中韓の連携

2008年6月28日

報告：金丹

はじめに

一. 日中韓 GC ネットワーク Breakfast Meeting

・日時：6月18日 7:30~8:30

・主な参加者 – 50人弱

UNGC—Georg Kell, Soren Peterson, Fred Dubee さんら

韓国— Pulmuone 社長/GCKN 会長 Nam Seung-Woo さん、

Ju Chul-ki 副会長兼事務局長、企業の方ら 20 数人、

日本— GCJN 事務局 山本さん、榎本さん、企業の方、法政センター等

中国— 中国企業連合会/GC ボードメンバー Chen Ying さん、

中国国際多国籍企業研究会(CIIMC) Zhang Xiaoyu さん、

光彩プロジェクト、COSCO 担当者等

・内容——各国における UN GC ネットワークの現状；

UN GC の価値を東北アジアで広める方法と手段；

地域におけるネットワークの交流の促進 など

・発言の要旨—

韓国—Nam 会長、Ju 事務局長

：3ヶ国のネットワークが集まる初めてのイベントは重要なマイルストーン；

GC の価値を東北アジアで広めていく機会、他の地域のモデルなる可能性

：韓国協会の現状についての紹介；

GCKN の機構設置、構成、主要参加企業、団体、活動の紹介

日本—山本事務局長

：GCJN の新しい体制についての紹介

GC-BJ、事務局、理事企業、活動、ネットワーク活性化、目標など

中国—Chen さん、Ma さん (COSCO グループ担当者)

：中国 GC 簡単な紹介；COSCO のケースを例に中国における CSR の展開について紹

介；中国の SASAC (国務院国有資産管理監督委員会) 管轄下の国有中央企業に COSCO

グループを見習うよう呼び掛けている。

: COCSO 企業における事例を紹介、COP リポート作成に関して報告。

UNGC—Kell さん

: 非常に感銘を受けた朝のミーティングである。三カ国のネットワークがこのように集まってシェアすることには、3つの重要なポイントがある:

- ①チャンピオン企業や CEO のリーダーシップによる目標が提示されたこと
 - ②それを支持する構造、すなわち設備や人的・物的資源の充実への努力が示されたこと
 - ③日中韓において、歴史（過去）および統合（現状）を背景に、国連の普遍的なアイデアを共有・選択し、相互に強い関係を構築する、貴重な機会が生まれたこと
- 商業的な相互作用を通じて平和と発展は実現することができ、未来を創造・選択することができることを確信する。

二. 韓国、中国の GC の現状

1. GC 参加

・韓国

2007年9月 GCKN 設立大会

加入数—約120社、

中心—公的企業が中心、大手私企業の参加不振

・中国

加入数—約170社

中心—中国企業連合会、中国光彩会、中国多国籍企業研究会 など

2. 部分的報告内容

・Nam 会長—

GC10原則とアジア的企業慣行、グローバルな CSR のトレンドとアジア企業文化、地域的差異検討し、グローバル・スタンダードとアジア的慣行、企業文化が矛盾なく適応していくことについて議論するいい機会；アジア各国の急激な社会変化の中で現れる難題の解決方法の提示可能性

・HERI— ハンギョレ経済研究所

日中韓 三カ国の持続可能経営に関する比較報告書を発表

Fortune Global 500 日中韓企業 50社 持続可能経営報告書に基づいて分析

分析方法—①透明性分析—GRI 基準に基づく情報公開率を透明性測定指標に

②成果内容分析—主要産業代表企業が公開した温室ガス排出など

比較研究の難点— 一部環境関連指標以外、比較可能な指標が少ない

- ・ 国家人権委員会－Na Younghee さん（人権教育担当）

韓国企業の GC 参加はまだ低調、メイントレンドではないが、いい影響を与えている。

韓国の NGO 去年 9 月 GRI 報告書の評価——透明性、人権の評価低い

GC 10 は人権・労働基準などの面でアイデアを提示している。

——>CSR は重要であり、国家人権委員会も CSR 推進を目標としている。

人権問題をコアな価値として取り上げられるように努力する

今年 企業の人権問題の実態調査を行い、その結論に基づき今後企業の人権ガイドラインをまとめることを目指す。

——>GCKN とも協力していく

政府の役割の重要性も言及

- ・ Cho Dongsung 教授－GCKN 副会長、ソウル大学

GC 原則の改善案を提示

GC ポジティブ評価とともに様々なネガティブ評価—COP の信頼性の問題、
コミュニケーション不足からの教育効果の喪失、用語の不明確から原則の遵守の
不確定など

改善方向—

コンプライアンスを超えて、反ネガティブな法令遵守から積極的行動に
企業文化としての CSR

もっと広い範囲のステークホルダーを考えること

広い範囲での改善を推進すること—サプライチェーンでの CSR、環境問題、消費者、
ガバナンスなど取り入れるべき

——>改善案— 3 つの改善案 18 項目のものも

労働、消費者、環境、法と秩序、社会

人権、労働、環境、腐敗防止、社会、サプライチェーン、企業運営

- ・ Chen Ying—中国の取り組み

GC 原則と中国の科学的発展観、調和のとれた社会の建設の理念は合致

SASAC（国務院国有資産監督管理委員会）—持続可能経営についての呼びかけ

UNGC 参加のメリット—グローバル化のなかで中国企業と世界をつなぐ橋として企業が正しい方向で CSR 運動に参加できること；GC 10 は flexible と同時に practical、global と同時に local なので、中国企業は UNGC を通じて国際的イシューの解決に参加できる。

最近の CSR 報告書発表企業の増加など

- ・ Zhang Xiaoyu さん—業界における企業の CSR の強化、GC 促進の取組を紹介。

- ①企業自身の経営発展の責任
- ②法制度順守義務の履行責任—環境、消費、労働、合法的経営など
- ③倫理的責任
- ④慈善責任を果たすことが企業の社会的責任である。

* 2008年11月15－16日 中外 CEO ラウンドテーブル会議への参加要請
(UNGC、UNDP などと共同開催)

・ Wu Xiuhe さん—Guangcai Project 担当者

民間企業家を中心に中国の貧困問題解決などに取り組んでいる団体。

1994年からプロジェクト開始；

13年間で16000以上のプロジェクトを実施、所属企業六万以上；

工業、農業、牧畜、ヘルスケア、学校教育など多方面で、投資誘致、就職機会創出、収入増加、寄付活動の活性化を目指す；

* 今回の四川大地震でも Guangcai Project を通じて資金・物資を震災地に届けて、災害後の支援を続けている。

ポイント——人を中心に考えること；持続可能性を目指すこと；中国の調和のとれた社会建設に向けて努力とも合わさって、民間企業家が政府に協力して、国内外の問題に取り組むための条件を提供すること。

—> プライベートセクターと党、政府とのキーリンクとして、政府に協力して様々な社会的問題解決で重要な役割を果たしている。

Dubee さんのコメント—Guangcai Project の経験をほかのネットワークでも取り入れることができなにか。10年前からプロジェクトを見てきているが、その理念、方法などはGCとも共通する点が多い。このプロジェクトは変化し続けている中国でさまざまな部門やサイズのビジネスが共同で環境、社会、ガバナンス (ESG) 問題に取り組めることを可能にしている。

・ その他——

SASAC—国有中央企業のCSRガイドライン発表

中国政府とともに四川震災を支援するなどのGCの役割など、日本、韓国を含む世界各国からの支援への感謝、災害後の中国で注目されるCSRなども

三. 今後の法政センターと中国、韓国の連携について

- ・ 市民団体関係者——Global Civic Sharing 姜汶奎 理事長、金恵卿事務局長
- 研究者——朴泰圭教授、盧翰均教授、Lee Wonjae 所長ら
- 研究グループ—KCCC (韓国企業市民センター)
- 韓国 国家人権委員会

UNDP 韓国代表部

UNDP 中国代表部

中国側の報告者ら

→日中韓のネットワーク間の交流の必要性についての認識の確認

GC、CSRに関する研究機関設置の動き

相互の研究機関との連携希望を確認

→今年秋に韓国、中国で調査を行うことについての協力を約束